

【考察】本症例では、血腫内膜の脳側から外膜の周囲まで広がる被膜があり、その中に発達した新生血管が認められた。現時点では血腫増大に関与したメカニズムなどは不明であるが、さらなる検討が必要と考えられた。

13 慢性硬膜下血腫の不思議

相場 豊隆・矢島 直樹・温 城太郎
 県立新発田病院 脳神経外科

現在脳外科で最も手術件数の多い慢性硬膜下血腫であるが、病態に謎があることも知られている。今回はその一端に迫った。

当院では2007年～2016年に成人典型例が517例あり、男性357例（平均74.1歳）、女性160例（平均79.8歳）であった。

男性に多いことは周知の事実であるが、当院では左側手術のほうが有意に右より多かった。（ $p < 0.05$ ）

まず男性に多いことについて、(1) 女性ホルモンの止血効果がある (2) 男性のほうに大酒家がおおい (3) 男性に頭部外傷受傷傾向がある (4) 潜在的くも膜のう胞が引き金になっているなどを(1)～(3)については文献的に、(4)については当院の症例の過去画像などから検討した。

また左側に多いことについては、(1) 左側の症状が出やすく早く手術をされ、右は見逃されているうちに自然治癒する (2) 実際に左のほうに発生しやすい について文献的に検討した。

結論として男性に多いことについては上記の要素の相乗効果が原因であり、左側には実際に発生しやすく、それには現生人類の脳の形態の左右差が関係しているのではないかとしたがまだまだ謎は残されている。

14 本年度の教室における診療と活動に関するご報告、および今後の抱負

大石 誠・長谷川 仁・藤井 幸彦
 新潟大学脳研究所 脳神経外科

新潟大学脳神経外科学教室では、2016年春から外来、病棟、手術に関する体制を大きく変化させ、11月までの7か月間を運営いたしました。とりわけ大きな変化は、臨床班制度の廃止でした。個々に様々な専門性を持ったスタッフが一つのチームとなって、手術を中心とした臨床・教育に当たり、大きな変化をもたらしたと思います。

関連病院よりご紹介を頂いた手術症例は7ヶ月で192件、腫瘍手術が75件、血管障害が21件、特殊領域が40件、その他が9件と、基幹病院として特色ある内容の手術を高い成績でこなすことができましたし、血管内治療も例年同様の64件を、専門医以外も参加して取り組み、こちらも高い成績を残しています。全ての症例を徹底的に検討し、手術後の反省まで確実に遂行するシステムで、症例を教室で共有し共にステップアップするスタイルにて、全教室員が成長できたと感じています。

本報告では、臨床内容の他、7名の大学院生の仕事内容、Cadaver dissectionや血管内治療セミナーなど、教育的イベント、教室に起こった一年間のできごとなどを併せて報告いたしました。来年度も当教室は臨床・教育に邁進しますし、研究の領域も益々盛り上げて参ります。

II. 特 別 企 画 「先輩から学ぶ」

1 当院における転移性脳腫瘍の治療成績

井上 明

山形県立中央病院 脳神経外科